

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500563

研究課題名（和文） イギリス民衆教育草創期の身体教育と体操実施に関する
身体運動文化論研究研究課題名（英文） A cultural study on physical education and gymnastic practice
in the initial stage of English popular education

研究代表者

榊原 浩晃 (SAKAKIBARA HIROAKI)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50255220

研究成果の概要（和文）：本研究では1820年代のイギリス民衆教育草創期における身体教育の考え方やその主要内容であった体操の文化的重要性について明らかにした。カール・フェルカーの体操は、ペスタロッチーの教育施設における教育論とその実践に深く関連しており、当時のヨーロッパ諸国の民衆教育の発展に重要な役割を果たしていたことが論証された。ロンドン体操クラブの活動とカール・フェルカーの体操は、大学やパブリックスクールなど多くの教育機関における身体教育の重視と体操実施の条件に影響を与えていたことが推察された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the cultural importance of the thought on physical education and its, main contents of gymnastic practice in the initial stage of English popular education in the years of 1820s' England. It was demonstrated that Carl Völker's gymnastics was deeply connected with the educational thought and practices in Pestalozzian Institute which was important role in the development of popular education in some European countries at that time. And it is concluded that the establishment of London gymnastic Society and Carl Völker's gymnastics were affected to the emphasis for physical education and gymnastic implement at the many educational institution, such as public schools, colleges, universities, and so on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：体育・スポーツ科学、体育・スポーツ史（スポーツ文化論）

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学

キーワード：(1)身体教育学 (2)身体運動文化 (3)イギリス (4)民衆教育
(5)体操運動

1. 研究開始当初の背景

今日、学校教育には保健体育の教科が存在し、学習指導要領の総則にも学校の教育活動

を通じて行う体育活動が謳われている。明治期の physical education(身体教育)の縮約語として体育の用語はすっかり定着している

ものの、スポーツの意味と誤解されるくらい哲学的意味として、その外延が広がっていることも事実である。今日でも「身体教育」に関する論考や学術書が出され、前述の誤解に警鐘を鳴らしている。身体教育の意味とその内容は、歴史的には近代の三育主義の教育の一端を身体的側面から担いながら、子どもたちの日常から人為的に身体を鍛える体操の実態とも関連を有し、1830年代から1840年代に定着した用語であると推察される。そうした歴史的な実証的研究を行う必要がそこにあるが、管見の限りではこうした研究は、イギリスにおいても、日本においても行われていなかった。こうした国内的、国外的な研究動向に対して、本研究は歴史的な実証的研究として、新しい研究として位置づけられ、研究を着想する背景を有するものであった。

したがって、本研究は、まず当時外来文化として定着していたドイツ式体操 (German style gymnastics) とそれらとの関連を身体運動文化論として捉え、身体教育論の系譜を解き明かすという全体構想を持って研究に着手した。本研究の具体的な目的は、イギリスにおいて民衆教育草創期の身体教育論が体操と関連を有しつつ、どのような経緯で、当時の民衆教育に位置づけられていったのかを概念的・実態的に追究し、学校教育における身体教育の考え方の必要性を学術的に明らかにしようとすることにあった。

2. 研究の目的

(1) 身体教育論とペスタロッチー教育との関連

まず、2009年度には英語圏の physical education 概念初期の意味内容を歴史的な資料の吟味によって時系列に明らかにすることを研究の目的とした。ペスタロッチー (Pestalozzi) の Letters on Early Education (1819年) が文献で確認される管見での英語の physical education の初出であった。ビーバー (George Eduard Biber) はペスタロッチー批判の書を執筆し、人為的な体操 (gymnastics) によって教育学的援用を試みていた。1820年代のロンドンでは、ドイツ系移民 (亡命者) の指導する体操クラブの活動が一時的な流行となっていた。カール・フェルカー (Carl Völker) は、体操をより教育的な観点で捉え直そうとしていた。国家の教育制度構築以前の民衆教育論の中で、physical education は実態ではなく、考え方として身体教育論が主張されていたとみられる。

(2) 1820年代のロンドンにおけるドイツ式体操実施の身体運動文化論

体操の実態について、特に1820年代のドイツ式体操の実態に関する資料を精査して、明らかにしようとした。それらの実態と教育的な意義を資料から読み取ろうとした。ドイツ式体操の内容はペスタロッチーの影響を受けたジョージ・エドアルト・ビーバーによるペスタロッチー関連資料を精査し、資料の解読を進めた。したがって、本研究ではドイツ式体操が教育学的に民衆教育に位置づけられていたこと、およびそこでの体操指導の実態を明らかにすることを研究の目的とした。また、ビーバーの文献『ヘンリー・ペスタロッチーと彼の教育計画』 (Henry Pestalozzi, and His Plan of Education, 1831) を資料として読み解き、さらに詳細な検討がなされた。このように、ドイツ式体操が教育学的に位置づけられ、民衆教育の内容としてドイツからの移入文化としての体操の実態を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究の研究計画・方法の要旨は、資料 (歴史研究の史料を含む) の収集とその吟味 (分析) 及び資料を引用しつつ研究叙述を完成させるという人文科学の研究方法を用いた。したがって、具体的には、以下のような研究計画・方法が採用された。

(1) 主要資料の収集と解読

民衆教育論における身体教育の位置づけ、及びその重要性を確認する研究に着手するために、必要となる資料・文献の収集 (文献収集第一次) を実施した。

本研究は、健康・スポーツ科学の研究領域の中で、身体教育学としての身体運動文化論研究を人文科学的研究方法で明らかにしようとするものであった。本研究の研究計画・方法として、資料や文献の収集が不可欠となっていた。すなわち、その当時発行されていた歴史的資料価値のある原典資料の収集・整理・吟味を経て研究が成り立つものであった。

研究計画・方法として、詳細に吟味したことは当時の身体教育論と民衆教育の実態との因果関係であった。当該研究の実施に必要な原典資料のうち、入手し検討した資料は以下のもの (国内所蔵及びマイクロフィルムの購入) であった。

- ① イギリス民衆教育関係文書 (William Lovett, Report on the Training of Pauper Children, 4th Annual Report of Poor Law Commissioners, 1838. などの原典資料)
- ② サムエル・スマイルズ (Samuel Smiles) 全集及びロバート・オーエン (Robert Owen) 全集などの教育思想家・実践家の著作集
- ③ 枢密院教育委員会報告書 Report of the

Committee of the Council on Education,
(1839～)

④ 19世紀初頭体操関係図書(特に、Gustavus Hamilton, the Elements of Gymnastics for Boys, and of Calisthenics, for Young Ladies, 1827, London などの原典資料)

⑤ 19世紀イギリス体育史関係図書(単行本及び最新の先行研究を含む)

これらの資料・文献の細目と所蔵状況については研究代表者の過去の渡英によって調査済みであった。2009年度年度においては国内図書館でのイギリス民衆教育及び身体教育関係図書・資料の文献所蔵調査を実施し、2010年度および2011年度においては、近代イギリス教育関係特殊資料(19世紀初頭の教育書簡などの文献)のマイクロフィルム等を、British Libraryの複写部門に作成依頼した。

(2) 体操の内容と実態の把握

研究方法として、多くの労働者階級の子どもたちの教育実態を考察しようとして、身体教育の実相を明らかにしようとした。すなわち、民衆教育の中で体操の民衆教育の位置づけとその重要性について資料を精査した。ウィリアム・ラベット(William Lovett)のReport on the Training of Pauper Children, 4th Annual Report of Poor Law Commissioners, 1838.などの原典資料にみる訓練や体操、ダンスの位置づけを一瞥した。また、カール・フェルカーの資料の収集に努め、本研究の核心をつく新出史料を入手した。それが、New Pestalozzian Institution: A Prospectus, 1826 と Professor Voelker's Gymnasium, 1826である。

3. 研究成果

(1) イギリスにおけるドイツ系体操実施の身体運動文化論的意義

研究成果として、以下のような新知見が得られた。

- ① カール・フェルカーの略歴と在ロンドン期間(1824年～1829年)の体操活動
- ② ロンドン体操クラブの設立とカール・フェルカーの体操の内容と系譜
- ③ 支部体操場設置とその閉鎖

ロンドン体操クラブの設立(1826年3月22日)以降、体操クラブの活動が確認できるのは1826年から1828年までの数年間であった。カール・フェルカーは、支部体操場の設置をロンドン市中に拡張しようとしていたとみられる。しかし、1820年代後半のロンドン

で体操に興じていたのはジェントルマンといわれる社会的に富裕な人々であった。これらの体操内容のうち、特に、跳躍、マスト、ロープ、梯子への登攀、鉄棒や平行棒上での運動、跳馬の運動などをみると、当然のごとくドイツのトゥルネンとの系譜を思わせる内容であった。渡英当初のカール・フェルカーの体操は、彼がかつて指導していたチュービンゲンでの学生や市民の子弟の体操内容と同様にロンドン市民に好評を博していたと考えられる。

しかし、彼より先に渡英し体操指導していたP.Hクリアスや彼の弟子たちの存在と彼らとの体操の主導権争いも存在した。開設した支部体操場が閉鎖に追い込まれ、体操クラブ活動が挫折していたことも事実であった。ロンドン体操クラブの設立とその活動は、イギリスにおける体操の系譜に地域の体操クラブ設置の痕跡を残している史実ととらえられる。さらに、体操祭開催の様子からはカール・フェルカーの体操活動やその内容が、1820年代のロンドンにおいて一時期好評を博するかのように宣伝されていたことも判明した。

(2) カール・フェルカーの体操と民衆教育における体操の位置づけについて

研究成果として、以下のような新知見が得られた。

- ① カール・フェルカーとペスタロッチー主義教育の関係者
- ② フェルカーの回想(リッツォー[Lutzow]の義勇軍からチュービンゲン大学時代)
- ③ 教育実践家であったフェレンベルクとの出会い、そしてスイスからイギリスへ
- ④ ロンドンにおけるカール・フェルカー、ペスタロッチー教育との接点

1820年代後半のイギリスにおいて、カール・フェルカーはスイスの教育思想家フェレンベルクをはじめ、ペスタロッチーの教育論を唱える教育家たちと親交があった。カール・フェルカーは、1827年にイギリスへのペスタロッチー教育論の唱道者として知られるビーバーと共著でNew Pestalozzian Institution, Prospectusと題するペスタロッチーの教育理念を示した小冊子を刊行していた。これが、新しい史料である。共著者のビーバーは、ヴィーテンベルクに生まれ、後にチュービンゲン大学に学んでいたこともあった。彼はドイツ解放戦争後、イタリアに一時退去したが、スイスのイヴェルドンでペスタロッチー主義の教育に接し、ニーデラーを擁護する立場にあったという。

ビーバーは教育史では、いわゆる「ペスタロッチー批判」の書を書いていたことで著名であるが、この史料でこのビーバーとフェルカーとの人脈が確認できたことになる。

この小冊子にもみられるとおり、カール・フェルカーが、いわゆるペスタロッチーの教育論にもとづいてイギリスの民衆教育の構想を描いていたことも明らかになった。

小冊子の中で、教育の枝葉(the Branches of Instruction)として体操を位置づけていた。この記述は、民衆の教育において身体教育が重視されていたとみられる。後に、ビーバーが 1831 年に著した著書『ヘンリー・ペスタロッチーと彼の教育計画』の中で、ビーバーは、体操に関してヤーンやカール・フェルカーについても紹介している。

このように、カール・フェルカーが民衆の教育の中での体操の位置づけを明確にしようとしていたことは、ビーバーのこの著作の記述からも明らかであろう。もとより、ドイツ式体操はイギリスにおいてカール・フェルカーに始まったのではない。カール・フェルカーより一足早く渡英しイギリスで体操指導したクリアスは、軍隊関係者に体操指導し、体操の普及にも努めていた。ビーバーのこの叙述部分の最後で「体操は気の抜けた機械的な軍隊的な訓練に取って代わるもので、単なるジェントルマンや若い女性のキャリセニックスに墮落していくものではない」と述べていた。カール・フェルカーの体操が、クリアスの体操とは異なっていることを示唆している。

カール・フェルカーの体操論は、1820 年代のイギリスの大学設立構想の推進者イエーツ (James Yates) の『イギリスにおける学問教育論』(Thought on the academical education in England, 1826 年)にも引用され、イギリスにおいて新大学構想の中では、体操は一領域となり得るものとして紹介されている。とりわけ、「カール・フェルカーは、体操教師の中でも際立って著名なのである」と評価されている。

その後、ロンドンの University College School の体操指導者ジェームス・チオッソ (James Chiosso) は、彼の著書『体育の提言』(Remarks on Physical Education, 1845)の中で、「カール・フェルカーやその他の者がこの国の中で公的あるいは私的な体操学校を設立し、そのシステムが部分的にはあれ、多くのパブリック・スクールや私的教育機関で採り入れられ応用されていった」とも述べられているからである。

これまで、カール・フェルカーはヤーンの弟子の 1 人として 1824 年に渡英し、ロンドンで体操指導をしていた人物として知られていた。彼の在ロンドン期間の活動と、ペスタロッチー教育の実践家や教育思想家との

接点を一次史料で検討すると、これまでの彼の人物像とは、異なるカール・フェルカーの人物像が浮かび上がってくる。ドイツからスイスへ、スイスからイギリスへと体操遍歴ともいえる彼の足跡からみて、単にドイツ式体操がイギリスに受容されたということやヤーンの弟子というトゥルナーとしての人物像がこれまで研究上重視されてきた。しかし、イギリスでのカール・フェルカーの体操指導には、彼のスイスでの体操指導と、ペスタロッチーの教育論の継承者の 1 人であったフェレンベルクをはじめ、イギリスへのペスタロッチーの教育論の受容に関わる教育家らとの人脈が影響を与えていた。したがって、カール・フェルカーの新たな人物像として、1820 年代以降のイギリスにおいて、ペスタロッチー主義の教育に依拠し民衆教育論の中に体操の位置づけを試みていた人物といえるのである。ビーバーとの接点はそのことを示しており、カール・フェルカーの研究にとって、重要な論点である。

(3) 研究成果の総括

本研究は、まずイギリスにおける身体教育 (physical education) の用語出現の民衆教育草創期 (1830 年代から 1840 年代) に遡り、その概念や主要な身体運動文化である体操 (gymnastics) の内容を明らかにすることであった。

平成 23 年度は、特に 1820 年代後半のカール・フェルカーの体操内容に焦点を絞った研究を行った。ドイツ式体操 (German style gymnastics) とその主たる実施場所のロンドン体操クラブが 1826 年に設立され、支部体操場があいついで拡充され、ロンドンにおいてその普及がなされた痕跡をとらえ直した。そこで実施されていたドイツ式体操の詳細が明らかになった。

身体教育の原初形態は、1790 年代のドイツ・シュネッペンタールの汎愛学校におけるグーツムーツ (Johann Cristoph Friedrich GutsMuths) の体育実践にまで遡る。当時の運動内容が再現されており、体操の文化的意義が確かめられた。

また、スイスからイギリスに移住したエドアルト・ビーバーとカール・フェルカーの人脈も追跡調査から判明した。体操内容を正確に記述するため、ドイツ語による研究成果発表と論文執筆を行った。このようにカール・フェルカーの体操が、ペスタロッチー教育にゆかりのある人物から高い評価を受けていたことは、フェルカーの体操指導とその内容が新天地であるイギリスにおいて、民衆教育の体操実施のバックグラウンドであったとみなされる。その後の時代に、身体教育は、多くの教育論者や実践家によって継承されるが、明治期の日本においては、サミュエ

ル・スマイルズ(Samuel Smiles)の『自助論』(Self-Help)が中村正直によって『西國立志編』の訳本名称で翻訳出版されていた。それらに所収の身体教育論の内容とイギリス・スポーツの叙述が英語圏の身体教育論として明治期の日本においても紹介されており、体操の文化的意義の一端も明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① Hiroaki Sakakibara, Karl Völker(1776-1884) und Eduard Biber(1801-1874) : Berührungspunkte zwischen dem Turnen in London gegen Ende der 1820er Jahre und Pestalozzischen Grundsätzen, 福岡教育大学体育研究センター紀要、査読有、36巻、2012、pp. 45-53.
- ② Hiroaki Sakakibara, Historical Materials on Carl Voelker(1796-1884), a German gymnast and Emigrant to London in the 1820s : Connection with the Pestalozzian Education, 福岡教育大学体育研究センター紀要、査読有、2011、35巻、pp. 71-82.
- ③ 榊原浩晃、ロンドン体操協会(London Gymnastic Society)の設立(1826年)とCarl Volkerの体操：イギリスにおけるドイツ系体操の初期事情、福岡教育大学体育研究センター紀要、査読有、2010、34巻、pp. 1-11。
- ④ 榊原浩晃、20世紀初頭英国学校体育の政策論議と学校衛生施策、福岡教育大学紀要、査読無 59巻、5(分冊)、2010、pp. 45-56.

[学会発表] (計8件)

- ① 榊原浩晃、グーツムーツの身体教育と1790年代の運動内容再現の試み、2011年度筑波大学体育・スポーツ史研究会、2012年2月19日、つくば市・筑波大学
- ② 榊原浩晃、Samuel Smiles ; Self-Helpにみる身体教育論とイギリス人のスポーツ—中村正直訳『西國立志編』の記述との比較検討—、日本体育学会第62回大会 2011年9月25日、鹿屋市・鹿屋体育大学
- ③ Hiroaki Sakakibara, Karl Völker(1776-1884) und Eduard Biber(1801-1874) : Berührungspunkte zwischen dem Turnen in London gegen Ende der 1820er Jahre und Pestalozzischen Grundsätzen, The International Society for the

History of Physical Education and Sport(ISHPES) Congress, 2011年8月11日、ドイツ・フランクフルト市、ドイツ体操協会

- ④ 榊原浩晃、カール・フェルカーの体操とペスタロッチ主義教育との関連についての考察、日本体育学会第61回大会、2011年9月8日、愛知県豊田市・中京大学
- ⑤ 榊原浩晃、カール・フェルカーとエドアルト・バイバー：英国への移民者と体操、平成22年度筑波大学体育・スポーツ史研究会、2011年2月19日、つくば市・筑波大学
- ⑥ Hiroaki Sakakibara, Carl Voelker(1796-1884), German Gymnast and Emigrant to London in the 1820s, and Pestalozzian Education, The International Society for the History of Physical Education and Sport(ISHPES) Seminar, 2010年6月4日、イスラエル、ナターニヤ市・ウイングートカレッジ
- ⑦ 榊原浩晃、Samuel SmilesのSelf-Helpにみる身体教育論とイギリススポーツ、2009年度筑波大学体育・スポーツ史研究会、2010年2月21日、つくば市・筑波大学
- ⑧ 榊原浩晃、Samuel Smilesの自助論(Self-Help)と身体教育論(Physical Education)、東北アジア体育・スポーツ史学会第8回大会、2009年8月4日、中国・大連市・大連理工大学

[図書] (計1件)

- ① 榊原浩晃、溪水社、カール・フェルカーの体操とロンドン体操クラブの設立(1826年)—1820年代後半のロンドンにおけるドイツ式体操事情、楠戸一彦先生退職記念論集刊行会編、体育・スポーツ史の世界—大地と人と歴史との対話—、溪水社、2012、pp. 17-36. (全20頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

榊原 浩晃(SAKAKIBARA HIROAKI)
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50255220